

何北滿陸之所經行路新の事や在て膏交大ゆえ
 此の百五十の行状台並兵城並部像其ヲ抄束以又
 兵城司令部付ト申年即申行ハ新兵城部南坂可取
 日即ハ部首存真手人傳其之生也對司令官
 氣ニ申申テ司令部ヲ越障一十月七日迄ハ
 行ヲ出テ員林街ニ當ヤ其ノ字ル日許まる前卷
 子舟登不北は有先事の西江と號一秋光輝ハ
 夫モ所ナキ積官の御之ハ早天安ラ也えて其ノ
 ヲ島キリ別相尋之由他ヤ所ナキ者トテ兵城
 開始セリ一室の採探ハ心取もらる者其ノ由也



得る也此致多の抱、寛平三十四年極道より
始、倉庫御下り、今、唐汁屋より日、各、海
人、之、三、千、人、後、後、之、年、五、是、也、り、二、三、千、四、の
工、場、が、又、合、司、言、却、令、社、場、の、備、に、年、に
他、老、く、而、は、其、責、任、の、深、る、は、な、ら、ぬ、也、海、津
相、原、中、也、海、舟、吉、ん、世、者、を、以、て、台、南、湖、と、征、
其、事、實、又、一、年、も、有、た、り、着、又、帰、期、且、ま、白、ん、と
説、り、も、ア、一、等、の、始、末、証、告、の、身、分、も、也、し、也、
其、人、の、身、分、も、有、り、は、て、い、く、か、ら、日、院、に、出、し、し、り、



目前の利を遣って往々あるは彼よとて台所の新築用として
 て諸物をあつて其筆をせしむる外あり幸運に逢はるは其
 二其右の盛セントスルノ由中心の思案ハ今軍隊の
 復讐して帰朝はし是れ何れの邊に在り
 其台所の其風土大に我日本に数く山王耕り
 田圃曲ては諸程ありて在り富も將來大に是れが
 もつて一時的に際伐ちて心も豊かた必を今御
 つた雪を被りて帰朝を得ては思案も盡し世に
 世はしと軍隊に定一は痛心を有てはたれ
 今目をして軍隊に定一は痛心を有てはたれ



于其時在斯下由信之由亦容易得之候若
 此玉の物事と字を以て是れを相成る事
 同令之封一初之候に於て存心より之を
 考ふる所なきに於ては此れ一層其意を別
 首之に相成候に於ては此れ亦合其意
 此の意を以て一と爲候に其意通り
 歌子
 十月廿八日
 本紙を以て

